

## ■ タイ・チュンポン市にVHFレーダーを設置、開所式を開催

NICT宇宙環境研究室は、タイ王国・モンクット王工科大学 (King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang; KMITL) と共同研究のもとに同国チュンポン市にVHFレーダーを設置し、2020年1月17日に開所式を行った。

このレーダーは、高度60-1000kmに位置する電気を帯びた大気(電離圏)の中に発生するプラズマバブルと呼ばれる現象を観測するために設置された。プラズマバブルは、磁場の赤道(磁気赤道)付近に日没後に発生し、南北方向に急激に成長しながら東向きに移動する性質を持っている。大規模なプラズマバブルは、その北端が我が国に達するものもある。プラズマバブル付近を通過する電波は遅延時間に乱れが生じるため、衛星測位の精度が低下したり、衛星通信・測位が利用できなくなることがある。このため、プラズマバブルの継続的な観測や発生の予測が求められてきた。本レーダーの設置により、プラズマバブルの継続的な観測が可能になり、農業や建設分野などにおける高精度衛星測位の利用拡大に寄与すると期待される。

本式典ではまず、KMITL副学長Wattanachai Pongnak氏から歓迎の辞が述べられ、続いてNICT徳田理事長が祝辞を述べた。さらに、Wiboon Rattanapornwongチュンポン市長や在タイ日本大使館の上野書記官らから祝辞をいただいた。その後、NICT宇宙環境研究室の穂積研究員の紹介で、レーダー完成に至るまでのメイキングビデオを投影。最後に主賓・関係者によるテープカットが行われ、レーダサイトの見学会を行って閉会した。

同式典にはタイ国内外から多くのメディアが出席し、NHKアジア総局および時事通信の取材も受けた。NHK WORLD Englishで放映されたものを含め、現時点で74件の報道が確認されている(1月22日現在)。



テープカットの様子



集合写真



Pongnak KMITL副学長



徳田理事長



Rattanapornwong市長



上野書記官



穂積研究員



レーダー見学会



VHFレーダー(アンテナ)の外観